

1. 教育計画

疾病の成り立ちと回復

分野	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復	科目名	臨床薬理学
単位・時間	1 単位・30 時間（授業 28 時間）	対象学年	2 年生
方法	講義	時期	前期
講師名（担当時間数）	法人講師 渡辺 剛（28 時間）		
学習目標	薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応（主作用、副作用）および作用機序について学び、薬物療法学について基盤を確かなものとする目的として臨床薬理学を性質を理解し学ぶ。		
成績評価方法	筆記試験		
使用テキスト	医学書院：専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進（3） 薬理学		
参考文献			
履修上の留意			
講師からの メッセージ	<p>毎年たくさんの“薬”が開発され使用されています。現在の医療は“薬”抜きでは成り立ちません。臨床薬理学は“薬”の基本である「“薬”はなぜ効くのか、どのような特徴があるのか？」そして、“薬”を使用する上で「必要なポイントは？」を理解して頂くために重要な教科と考えています。病気はなぜ起こるのか？その症状はなぜ起こるのか？を一緒に考えていけば“薬”をなぜ使うのか？その“薬”の「効果が現れると病気は治る！」が理解できるようになります。</p> <p>医療の現場で“薬”が出てこないことはありません。それほど身近な存在の薬ですが、使い方を間違えれば「死」という結果に繋がることもあり、“薬”の使用は「医療安全」の面からも注目されており、“薬”については学ぶことがたくさんあります。出来るだけ分かりやすくお話しするつもりです。嫌いにならないでください。</p>		

2. 授業計画

回	時間	主題	授業内容	形態	備考
1	2	総論	薬物治療の目指すもの、薬はどのように作用するのか	講義	
2	2	総論	薬はどのように体内をめぐるのか	//	
3	2	各論	自律神経の役割と作用する薬物	//	
4	2	各論	高血圧治療剤、心不全治療剤	//	
5	2	各論	狭心症治療剤、不整脈治療剤	//	
6	2	各論	利尿剤、脂質異常症治療剤	//	
7	2	各論	貧血治療薬、抗凝固剤、血栓溶解剤	//	
8	2	各論	抗血小板剤、抗炎症剤	//	
9	2	各論	痛風、リウマチ治療剤、免疫抑制剤	//	
10	2	各論	抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤、気管支喘息・去痰剤、呼吸促進剤	//	
11	2	各論	消化性潰瘍用剤、制吐剤、中枢神経系用剤	//	
12	2		糖尿病剤、抗ガン剤の副作用	//	
13	2		抗生物質について	//	
14	2		モルヒネ、総括	//	
15	2	評価	筆記試験		